

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2020年8月11日
【四半期会計期間】	第23期第2四半期（自 2020年4月1日 至 2020年6月30日）
【会社名】	シルバーエッグ・テクノロジー株式会社
【英訳名】	Silver Egg Technology CO., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 トーマス・アクイナス・フォーリー
【本店の所在の場所】	大阪府吹田市江坂町一丁目23番43号
【電話番号】	06-6386-1931
【事務連絡者氏名】	管理部 副部長 樋之内 幸正
【最寄りの連絡場所】	大阪府吹田市江坂町一丁目23番43号
【電話番号】	06-6386-1931
【事務連絡者氏名】	管理部 副部長 樋之内 幸正
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第22期 第2四半期連結 累計期間	第23期 第2四半期連結 累計期間	第22期
会計期間	自2019年1月1日 至2019年6月30日	自2020年1月1日 至2020年6月30日	自2019年1月1日 至2019年12月31日
営業収益 (千円)	472,650	616,578	999,230
経常利益 (千円)	27,611	140,576	110,687
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失() (千円)	14,639	58,590	20,165
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	6,292	58,073	26,614
純資産額 (千円)	912,076	963,868	885,732
総資産額 (千円)	1,027,241	1,141,184	1,021,945
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額() (円)	5.01	19.87	6.89
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額 (円)	4.99	19.82	-
自己資本比率 (%)	88.79	84.46	86.67
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	8,160	92,726	61,360
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	110,994	18,065	130,214
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	6,250	1,312	12,812
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	685,537	801,980	726,408

回次	第22期 第2四半期連結 会計期間	第23期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自2019年4月1日 至2019年6月30日	自2020年4月1日 至2020年6月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	0.94	7.66

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 営業収益には、消費税等は含まれておりません。

3. 第22期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失金額であるため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

新型コロナウイルス感染拡大による事業への影響等については、引き続き今後の状況を注視してまいります。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

経営成績

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、これまでの企業収益や雇用環境の改善を背景にした緩やかな回復基調から一転し、新型コロナウイルス感染症の世界的拡散による世界経済の先行き懸念がこれまでにない厳しい環境に転じたことを受け、より一層、不透明な状況となっております。

一方で、当社の事業が関連するBtoC-EC（消費者向け電子商取引）市場規模は、2018年に18.0兆円（前年比8.9%増）から、2019年は19.4兆円（前年比7.7%増）に成長しており、同時にEC化率も6.8%（前年比0.54ポイント増）と増加傾向にあります。そのうち、物販は10兆515億円（前年比8.1%増）と51.9%を占めております。また、2019年のネットショッピングを利用した世帯（2人以上の世帯）の割合も42.8%（前年比3.6ポイント増）と増加しており、スマートフォンの利用範囲の広がり等により、商取引の電子化が引き続き進展し、さらなる拡大が見込まれております（経済産業省・総務省調べ）。

このような状況の中、当社は「AI（人工知能）クラウド型サービスで、あらゆるタッチポイントにおけるリアルタイム・パーソナライゼーションの実現」をミッションに掲げ、ECサイト運営企業、ウェブサービス企業向けに、AIを用いたマーケティング支援ツールである「リアルタイム・レコメンド・サービス」を提供してまいりました。

営業活動につきましては、「Go Deep」戦略により引き続き既存業界であるアパレル業界や人材業界、並びにメディア業界（電子書籍）を中心に、既存顧客の売上が堅調に推移いたしました。またレコメンドの売上も底堅く推移し、当第2四半期末時点での既存顧客の売上は想定を上回るペースで増加いたしました。新規顧客獲得の施策としましては、ECパッケージの提供企業や、データフィード管理ツールを提供するマーケティング支援企業など、各ジャンルにおいて強みを持つ優秀なパートナー企業との連携強化を進めてまいりました。

一方で、新規顧客獲得の施策として例年実施しております各種展示会出展、セミナー開催に関しましては、全国的な新型コロナウイルス感染症の影響により開催延期等の措置が講じられていることを受け、これらに代わる新たな施策の検討を進めてまいりました。

研究開発につきましては、新サービスとして見た目が似ている商品を高精度でレコメンド表示する画像認識レコメンドの対応アイテム点数拡張と精度向上を図る一方で、同サービスの受注を開始し、アパレル企業において初リリースを行いました。

一方、子会社であるSilver Egg Technology Asia Limitedを含めた当社グループは、前期末から引き続いて新たなAIマーケティング・プラットフォームの次世代バージョンリリースに向けての研究開発強化にも取り組んでまいりました。

今後もAI技術をベースにしたデジタルマーケティングサービスの提供を通じて、多様なマーケティング施策の効果向上を支援するとともに、あらゆるチャネルとデバイス上での、パーソナライゼーションによる付加価値向上を実現してまいります。

この結果、当第2四半期連結累計期間の営業収益につきましては、上述の「Go Deep」戦略の推進に加え、新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛要請に伴う、いわゆる巣ごもり消費に起因するインターネット通販需要増加時期の影響もあり、特に既存顧客向けの取り込みにより大幅に伸長し616,578千円（前年同期比30.5%増）となりました。

利益につきましては、新型コロナウイルス感染拡大の影響による展示会出展やセミナー延期等に係る代替対策、従業員の在宅勤務対策など事業維持対策に伴う費用抑制効果等で営業費用が微増に留まったこと等により、営業利益は141,610千円（同413.3%増）、経常利益は140,576千円（同409.1%増）と大幅な増加となりました。また、投資有価証券評価損を計上いたしましたでしたが、上記により親会社株主に帰属する四半期純利益は58,590千円（同300.2%増）となりました。

なお、当社グループは、レコメンドサービス事業の単一セグメントであるため、セグメント情報に関連付けた記載を行っておりません。

財政状態

(資産)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ119,239千円増加し、1,141,184千円となりました。主な内訳は、現金及び預金の増加75,571千円、売掛金の増加23,546千円であります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べ41,102千円増加し、177,316千円となりました。主な内訳は、未払法人税等の増加37,384千円であります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ78,136千円増加し、963,868千円となりました。主な内訳は、資本金の増加10,031千円、資本剰余金の増加10,031千円、親会社株主に帰属する四半期純利益58,590千円によるものであり、自己資本比率は84.46%となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ75,571千円増加し、801,980千円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動の結果、得られた資金は、92,726千円(前年同期に得られた資金は8,160千円)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益の計上額117,662千円、投資有価証券評価損22,913千円があった一方で、売上債権の増加額23,546千円、法人税等の支払額29,432千円があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動の結果、支出した資金は、18,065千円(前年同期に支出した資金は110,994千円)となりました。これは、ソフトウェア仮勘定の無形固定資産の取得による支出18,065千円があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動の結果、得られた資金は、1,312千円(前年同期に得られた資金は6,250千円)となりました。これは、新株予約権の行使に伴う株式の発行による収入1,312千円によるものであります。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について、重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における研究開発活動の金額は、4,850千円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,000,000
計	8,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2020年8月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	2,966,942	2,966,942	東京証券取引所 (マザーズ)	単元株式数 100株
計	2,966,942	2,966,942	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、2020年8月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額 (千円)	資本準備金残 高(千円)
2020年4月1日～ 2020年6月30日 (注)	28,542	2,966,942	10,031	285,272	10,031	270,035

(注)1. 2020年4月24日付で譲渡制限付株式報酬としての新株の発行による増加26,042株、資本金及び資本準備金がそれぞれ9,375千円増加しております。

2. 2020年4月1日～2020年6月30日において新株予約権の行使による増加2,500株、資本金及び資本準備金がそれぞれ656千円増加しております。

(5)【大株主の状況】

2020年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
トーマス・アクイナス・フォーリー	兵庫県西宮市	1,775,400	59.83
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1丁目6番1号	79,541	2.68
楽天証券株式会社	東京都港区南青山2丁目6番21号	45,100	1.52
クレディ・スイス証券株式会社	東京都港区六本木1丁目6-1	40,400	1.36
榎阪 健	東京都江東区	26,042	0.87
幅 昭義	東京都新宿区	20,600	0.69
松井証券株式会社	東京都千代田区麹町1丁目4番地	20,600	0.69
関根 弘良	埼玉県越谷市	20,100	0.67
梅森 正芳	兵庫県西宮市	20,000	0.67
BNYM SA/NV FOR BNYM FOR BNY GCM CLIENT ACCOUNTS M LSCB RD (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀 行)	ONE CHURCHILL PLACE, LONDON, E14 5 HP UNITED KINGDOM (東京都千代田区丸の内2丁目7-1 決済事業部)	17,038	0.57
計	-	2,064,821	69.60

(6)【議決権の状況】

【発行済株式】

2020年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,965,400	29,654	-
単元未満株式	普通株式 1,542	-	-
発行済株式総数	2,966,942	-	-
総株主の議決権	-	29,654	-

(注)「単元未満株式」には当社保有の自己株式42株が含まれております。

【自己株式等】

該当事項はありません。

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当第2四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2020年4月1日から2020年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年1月1日から2020年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	726,408	801,980
売掛金	188,131	211,677
その他	11,996	41,149
貸倒引当金	65	74
流動資産合計	926,471	1,054,732
固定資産		
有形固定資産	33,195	30,301
無形固定資産	12,173	30,374
投資その他の資産		
投資有価証券	27,402	-
その他	22,703	26,635
貸倒引当金	-	860
投資その他の資産合計	50,105	25,775
固定資産合計	95,474	86,452
資産合計	1,021,945	1,141,184
負債の部		
流動負債		
未払金	58,406	62,262
未払法人税等	30,525	67,909
その他	47,282	47,144
流動負債合計	136,213	177,316
負債合計	136,213	177,316
純資産の部		
株主資本		
資本金	275,240	285,272
資本剰余金	260,004	270,035
利益剰余金	357,070	415,660
自己株式	134	134
株主資本合計	892,181	970,834
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	6,449	6,965
その他の包括利益累計額合計	6,449	6,965
純資産合計	885,732	963,868
負債純資産合計	1,021,945	1,141,184

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
営業収益	472,650	616,578
営業費用	1,445,060	1,474,968
営業利益	27,589	141,610
営業外収益		
受取利息	52	3
受取手数料	20	-
営業外収益合計	72	3
営業外費用		
為替差損	51	176
貸倒引当金繰入額	-	860
営業外費用合計	51	1,037
経常利益	27,611	140,576
特別損失		
固定資産除却損	0	-
関係会社整理損	1,686	-
投資有価証券評価損	-	22,913
特別損失合計	1,686	22,913
税金等調整前四半期純利益	25,924	117,662
法人税、住民税及び事業税	13,273	62,332
法人税等調整額	1,988	3,259
法人税等合計	11,284	59,072
四半期純利益	14,639	58,590
親会社株主に帰属する四半期純利益	14,639	58,590

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
四半期純利益	14,639	58,590
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	8,347	516
その他の包括利益合計	8,347	516
四半期包括利益	6,292	58,073
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,292	58,073
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	25,924	117,662
減価償却費	2,070	2,946
貸倒引当金の増減額(は減少)	1	868
受取利息	72	3
固定資産除却損	0	-
関係会社整理損	1,686	-
投資有価証券評価損益(は益)	-	22,913
株式報酬費用	-	4,687
売上債権の増減額(は増加)	4,318	23,546
前払費用の増減額(は増加)	6,826	14,389
未払金の増減額(は減少)	12,242	3,874
未払費用の増減額(は減少)	287	12,377
未払消費税等の増減額(は減少)	5,502	9,832
その他	1,947	5,222
小計	27,439	117,691
利息及び配当金の受取額	72	4,467
法人税等の支払額	19,351	29,432
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,160	92,726
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	695	-
無形固定資産の取得による支出	-	18,065
投資有価証券の取得による支出	110,299	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	110,994	18,065
財務活動によるキャッシュ・フロー		
株式の発行による収入	6,250	1,312
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,250	1,312
現金及び現金同等物に係る換算差額	6,472	401
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	103,056	75,571
現金及び現金同等物の期首残高	788,594	726,408
現金及び現金同等物の四半期末残高	685,537	801,980

【注記事項】

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響について)

新型コロナウイルス感染症については収束時期を正確に見通すことは現時点において困難ではありますが、当第2四半期連結会計期間末において重要な影響は生じておりません。

(四半期連結損益計算書関係)

1 営業費用のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
給料及び手当	126,024千円	135,079千円
貸倒引当金繰入額	1	8
通信費	92,657	114,300

2 投資有価証券評価損

当社の連結子会社Silver Egg Technology Asia Limitedが所有しておりました投資有価証券のZeroth SPC社(以下、Zeroth社)が運営するAI特化スタートアップアクセラレーターファンドへの運用開始分について、当社(親会社)へ2020年4月に移管を行い、ファンドの運営管理ならびに監視体制の強化を図ってまいりましたが、当第2四半期連結会計期間(2020年4月1日~2020年6月30日)において、新型コロナウイルスの更なる感染拡大の影響に加え、Zeroth社の運営責任者ならびにファンドマネージャーが不在となる等の運営環境及び管理体制が急変いたしました。これにより、当社として投資の価値を適切に把握することが、困難な状況に至りましたため、保守的な観点から減損損失処理を行うことが妥当と判断し、特別損失として22,913千円の投資有価証券評価損を計上しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
現金及び預金勘定	685,537千円	801,980千円
現金及び現金同等物	685,537	801,980

[重要な非資金取引の内容]

譲渡制限付株式報酬に関するもの

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
譲渡制限付株式報酬としての 新株の発行による資本金増加額	-	9,375千円
譲渡制限付株式報酬としての 新株の発行による資本準備金増加額	-	9,375

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、2020年3月2日開催の取締役会において、譲渡制限付株式報酬制度の導入を決議し、2020年3月27日開催の第22期定時株主総会において承認可決されました。2020年4月24日付で譲渡制限付株式報酬として新株の発行26,042株を行っております。この結果、資本金及び資本準備金がそれぞれ9,375千円増加しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は、レコメンデーションサービス事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	5円01銭	19円87銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (千円)	14,639	58,590
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	14,639	58,590
普通株式の期中平均株式数(株)	2,920,098	2,948,747
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	4円99銭	19円82銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (千円)	-	-
普通株式増加数(株)	16,669	6,937
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年8月7日

シルバーエッグ・テクノロジー株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 目細 実 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 野出 唯知 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているシルバーエッグ・テクノロジー株式会社の2020年1月1日から2020年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2020年4月1日から2020年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年1月1日から2020年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、シルバーエッグ・テクノロジー株式会社及び連結子会社の2020年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。

